

「まりな…叔母さん…
すごい似合ってるよ…」

「……やだこの格好…
は、恥ずかしい……！」

今日から旦那は出張に出て
週末までは帰ってこない。
それから甥っ子は一日中
ずっと私を動物的な目で
見ていたの。

夜になったらカイ君にこの
破廉恥な服を渡されて、
彼の部屋に連れて行かれた。

「叔母さんがエッチ
すぎる…ちんこが
すごい興奮してきたよ。」

「…え、エッチだ
なんて…カイ君こそ
すごいスケベな目で
みてるくせに…♡」

今夜もまたこの…
デカいおチンポで
犯されるだと思えば…
身体が…あそこが…
キュンキュン…してきた♡



「はあ…はあ…
叔母さん…!!」

「え、ひやあああつ?!
かか、カイ君?! こ、怖い
降ろして! こんなに高く
持ち上げられちゃ…
怖いわよ」

「早く…叔母さんの
マン汁…飲みたい!!」

「はううう?! おおお?!
ままま、まっへ」

ちゆる♥ちゆるりゆる
じゅぷ♥れろれろ!!

ああだめ…
そんなに激しく
おまんこ吸われて…
舐められたら…

「フッ…」

「フル」

「じゅぽ」

ぐぽぐぽ♥
じゅろろろ♥
ずろろろお♥

おお…叔母さん…
それいい…いいよ!!

私まですごい
発情して…
このおチンポから
離れられなく
なっちゃう♥

「ぐぽ」

我慢…できなく
なっちゃう…!!

「ぜえ…ぜえ…おお♡
んおほ♡ほおん…」

ほー
おほ♡

ほー

「カイ君の熱いザーメン…
お腹に沢山入ってるよ…♡」

まだ2時間しかすぎでないのに、
アクメ決めた回数が思い出せない
ほど…私の身体はいっぱい犯された。
でも甥っ子はまだまだやる気が
いっぱいのような。一面は怖いけど、
ここまで私を求めてるこの子を見
ると…妙に嬉しくもなる。

「今日も朝まで絶対
離さないんだから…
まりな叔母さん…」

これから朝まで…週末になる
日まで何度も…何度も身体を
めちやくちやにされるのかと
思えば…興奮が止まらない。

ごめんなさいあなた…
私…あなたの甥っ子に…
彼のおチンポに負けて
しまいました♡

ビュル

ビュル







